

充実した教育環境

「北野らしさ」を思わせる斬新な設計のもと、「平成の名学校建築」として21世紀にふさわしい新校舎が平成14年に竣工しました。



- ◆阪急十三駅を下車、商店街を抜け「淀川通り」に沿って600mほど西に向かうと、右手に市民の憩いの場「十三公園」があり、左手の本校「読書の森」とあわせて、付近のにぎわいを忘れさせるたたずまいを見せています。

「読書の森」から20mあまり、直線で形作られた本校正門とそれとは対照的に独特な球形の建造物「六稜会館（同窓会館）」（p22参照）が訪れた人を迎えます。正門をくぐると、正面には「本館管理棟」北側（2階物理教室・3階音楽室）が、その左手には大きなガラス張りの窓をもつ「図書館」（地下1階、地上2階）がずっしりと構えています。

- ◆「教室棟」に向かうケヤキ並木のアプローチの左には曲面の壁がモダンな「多目的ホール」（写真右）があります。このホールは最大約700名が収容でき、入学式・卒業式などの式典のほか、六稜祭の催し、学年集会や音楽系の部活動などで活用されています。一方、ケヤキ並木の右側には府立高校では数少



ない50mプールがあり、毎年9月の水泳大会ではプールサイドに全校生徒が集結、クラスメートの熱い応援がこたえます。



図書館

校舎改築に伴い、2000（平成12）年春に新築オープンしました。

図書館の前面は「読書の森」とよばれる緑豊かな庭園があり、四季折々、閲覧室や自習室で読書・学習に専念する生徒の目を休ませてくれます。図書館には現在、開架書庫に約3万冊、閉架書庫に約5万冊、合計約8万冊近くの図書が収蔵・保管され、蔵書数は公立高校の図書館としては全国でも群を抜いています。蔵書の種類も明治時代の貴重な教育資料から最近の話題作まで多岐にわたり、卒業生からの寄贈図書が多いことも特色の一つです。

本校図書館の蔵書の約50％はパソコンで検索することが可能です。また、図書の貸出し・返却業務については、バーコードの貼付された図書カードを用いて貸出端末で処理されるので、手続きはいたって簡便です。また、図書館には生徒が自由に利用できるパソコンも設置されており、生徒の学習活動に役立っています。図書館サポーターという生徒の自主活動もあり、自分たちで作っていく居心地のよい場所になっています。



- ◆ケヤキ並木が終わる所が東西に長くのびる「教室棟」中央付近です。東側2階には地歴公民科・理科の特別教室等が、3階には3年生の教室があり、「本館管理棟」へとつながっています。

特に東側3階の3年生教室の廊下はそのままテラスになり、そこから見える校内や十三公園の木々の色は季節ごとに変化し、心落ち着くひとときを与えてくれます。

「教室棟」西側は2階に2年生の教室が、3階に1年生の教室があり、西側の端の壁には戦時中の空襲の弾痕が残る旧校舎の壁がメモリアルウォール（p22参照）として保存されています。

また、「教室棟」中央部の屋上にはドーム型の六稜天文台が設置されていて、天体観測が可能です。



- ◆「教室棟」の下をくぐると、校地南側にあるグラウンドに出ます。都心の高校であるにもかかわらず300mトラックがとれる広大なグラウンドは、体育の授業のほか、硬式野球部、ラグビー部、サッカー部、陸上競技部等の練習場所になっています。グラウンドの西側にはハンドボールコート2面、テニスコート3面があります。テニスコート横には3階建ての建物「セミナーハウス」があり、クラブの室内活動の練習スペースやミーティングルーム等として利用しています。

- ◆体育館は、2階がアリーナ（バスケットコート2面）、1階が剣道場と柔道場、食堂です。食堂には豊富なメニューが揃っており、昼休みの生徒たちの憩いの場として賑わいをみせています。

六稜天文台



本校創立130周年記念事業の一つとして、卒業生で数多くの反射望遠鏡製作に携わってこられた石川勇氏より寄付されました。直径4mのドームに納める天体望遠鏡は、口径510mm。高校に備えられるものとしては、日本屈指の高精度反射望遠鏡です。

広大なグラウンドより教室棟を望む



六稜会館（同窓会館）

3階には六稜ホールとロビー、2階には会議室と事務局、応接スペース、1階には六稜サロン、地下1階には六稜ギャラリーと研究室、収蔵庫があります。創立130周年を記念して卒業生などからの募金によって建設されたもので、生徒や教職員・卒業生の文化的活動スペースとして広く活用されています。3階六稜ホールでは各種講演会や生徒の発表会が行われます。また地階・六稜ギャラリーには、本校所蔵の歴史的資料や美術品などが展示されています（下参照）。



今もなお北野の歴史を残すもの

◇メモリアルウォール

第2次世界大戦末期の1945年、大阪大空襲の際には本校も爆撃を受け、剣道場や食堂が全焼し、9名の生徒が命を奪われるという大きな惨害を受けました。旧校舎西端の壁面には当時のアメリカ軍戦闘機による機銃掃射の弾痕跡が20数カ所ありました。

校舎改築にあたり、2002年にその弾痕跡が残る旧校舎壁面が、「平和を祈念するメモリアルウォール」として新校舎の西面に保存され、現在に至っています。

また、メモリアルウォールの前には、後世にその惨禍を語り伝えるために「殉難の碑」が建立されて、平和への願いを現在に伝えています。なお、「殉難の碑」の裏面には、この空襲で亡くなった2人の北野生の遺族の文章が刻まれています。



◇北中のマーク

旧校舎の屋上には、旧制「北野中学校」の名称をシンボルにしたマークがあり、当時の生徒たちを見守っていました。校舎改築にともない正門右側に移設され、現在も登校する生徒たちを迎えています。

ちなみに、新校舎にもこのマークをあしらったデザインが屋上中央部につくられています。



◇六稜ギャラリー

六稜会館の地階にあり、明治以来の学校の諸資料（教科書、ノート、写真、会議録、エジソンの蓄音機、その他）や卒業生である手塚治虫氏(59期)の漫画、吉原治良氏(36期)の油絵、森繁久彌氏(45期)の書などが展示されています。



◇笹部桜

水上勉の小説「櫻守」のモデルである笹部新太郎氏（17期）は、東京帝大(現在の東京大学)を卒業後、桜の研究に一生を捧げました。氏は古来日本人が愛してきた山桜に強くひかれ、桜の優良品種保存と山桜の改良研究に取り組んだほか、大阪造幣局や西宮・夙川などの各地の桜の管理指導と植樹に力を尽くしました。中でも、八重咲きの花をいっぱいつける名桜「笹部桜」の開発は有名で、本校正門横にもこの「笹部桜」が毎年4月に美しい花を咲かせています。

